



仙台・宮城元気ニュース

～仙台地域の明るく元気な情報を発信！～

令和7年度第3号(通算第92号)
令和7年10月31日発行-年4回発行-
【発行】宮城県仙台地方振興事務所

令和7年度働く女性の理想のキャリア叶えるプロジェクトチームが 管内企業の魅力を深掘り！

▶地方振興部



大学を卒業する女性の県外流出抑制を目的として、県内の女子大学生6名で構成する「働く女性の理想のキャリア叶えるプロジェクトチーム」が9月3日に発足し、活動をスタートしています。

プロジェクトチームは、これまで企画会議を5回開催しており、第2回～4回の企画会議では、企業の魅力を引き出す取材やSNSでの情報発信を行うためプロから講義を受けた後、スクラム企業*との意見交換を行いました。

10月2日に開催した第5回企画会議では、スクラム企業の魅力を深掘りするためのインタビューに向けた準備として、各企業の特徴をまとめ、インタビューでの質問内容、情報発信の方法等を検討しました。

今後は、プロジェクトチームメンバーがスクラム企業8社を訪問してインタビューを行いInstagramで情報発信するとともに、学生向けのイベントについて企画・検討していく予定です。

*スクラム企業：女性の雇用及び女性が働きやすい職場づくりに意欲的であり、本事業の趣旨・目的に賛同いただいた管内企業



スクラム企業との意見交換



第5回企画会議での検討の様子

仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会仙台地域部会での観光PRを行いました！

▶地方振興部



10月11日・12日の2日間、仙台うみの杜水族館で「おいでよ うみの杜！みやぎ秋の観光キャラバン＆特産品販売会」を開催しました！館内では自治体ブースが並び、シールラリーを通して各地の魅力を紹介しました。また、水族館前では、1日目にサックスバンド「SAXOBONGO SENDAI」のジャズ演奏、2日目にシンガーソングライター熊谷金治さんのライブや「鼓響」とおのみや太鼓」の和太鼓演奏が行われ、会場を大いに盛り上げました！

さらに、PRキャラクターの登場や塩竈藻塩ソフト・名取せり鍋など特産品の販売も行い、仙台地域の多彩な魅力を発信するイベントとなりました。



キャラクター大集合



特産品販売会



和太鼓演奏

株式会社一苺一笑が「みやぎ園芸振興大賞」を受賞しました ▶ 農業振興部（亘理農業改良普及センター）



8月31日に、仙臺緑彩館で「令和7年度宮城県園芸振興大会」が開催され、当管内の農業法人である株式会社一苺一笑が「みやぎ園芸振興大賞」を受賞しました。

「みやぎ園芸振興大賞」は、平成30年度から始まった宮城県独自の表彰制度で、園芸品目の生産、流通、加工及び販売等に係る団体等を対象とし、本県園芸産出額の向上に寄与する取組を行った団体等を称えるものです。

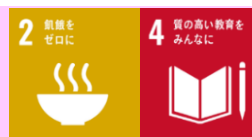
大賞を受賞された株式会社一苺一笑は、東日本大震災で被災したいちご生産者3人で平成24年に設立され、社名には「一粒のいちごで一人ひとりを笑顔にしたい」という思いが込められています。

今回の表彰では、環境制御技術の導入や観光農園を開設し生産額を向上させているほか、女性活躍推進や農福連携、後継者育成等に積極的に取り組んでいる点が評価されました。



受賞者の皆様（前列左：㈱一苺一笑）

農業大学の「先進農業体験学習」が無事終了しました ▶ 農業振興部（亘理農業改良普及センター）



9月8日から始まった農業大学の「先進農業体験学習」が、10月10日の終了式をもって、33日間の日程を終えました。

亘理管内の先進的な農業者の下で学んだ13人の学生たちは、開始式とは見違えるほど、自信に満ちた頼もしい表情で終了式に臨みました。

式の中では、学生一人ひとりから、「授業だけではわからなかった農業の大変さややりがいを理解し、前向きに取り組むことができた」、「栽培管理だけでなく、加工食品の販売会に同行することで、お客様との対面販売を学ぶことができた」、「受入農業者の皆さんに丁寧に教えていただいた」等といった、充実した研修を物語る言葉が聞かれ、彼らを大きく成長させたことが伝わってきました。

普及センターでは、この貴重な経験を糧に学生たちが未来の農業界で大きく羽ばたいてくれることを期待するとともに、今後も地域農業の未来を担う新規就農者や青年農業者を支援してまいります。



終了式の様子

仙台市立大沢小学校で稲刈り体験が行われました！

▶ 農業農村整備部

10月8日に、仙台市立大沢小学校の学童農園田で5年生を対象とした稲刈り体験が行われました。この体験は、仙台市大倉川土地改良区が21世紀創造運動の「総合的な学習の地域活動」の一環として支援を行っています。

今回収穫するのは、宮城県の主力品種である「ひとめぼれ」です。5月に子どもたちが手で植え付け、大切に成長を見守ってきた稲が、ついに実りの時を迎えました。

子どもたちは、土地改良区や地域の方々から稲の刈り方を教わりながら、稲刈り鎌を片手に夢中になって刈り取りしました。

今回刈り取った稲は、乾燥・粳すり・精米を経て大沢小学校へ届けられ、子どもたちが美味しくいただく予定です。また、一部は地域のボランティアの方々への配布や、各家庭で楽しめられるとのこと。

地域の方々の協力のもと、子どもたちにとって、食べ物大切さや稲作の伝統を感じる貴重な学びの機会となりました。

農業農村整備部では、農業農村の有する多面的機能への理解を深めてもらうため、今後も地域活動の支援を行っていきます。



黄金色に実った稲を刈り取っていきます



コンバインでの稲刈りも見学しました

「三陸塩竈ひがしもの」販売開始式が開催されました

▶ 水産漁港部

塩釜市水産振興協議会が主体となってブランド化を進めている「三陸塩竈ひがしもの」の販売開始式が10月3日に塩竈市魚市場で行われました。

「三陸塩竈ひがしもの」は、塩竈市魚市場の水揚げの主力である生の「メバチマグロ」のうち、漁場や漁法、漁獲期間に関する要件を満たし、なおかつ「鮮度」「色つや」「脂ののり」等について塩竈の目利き（仲買人）の目にかなったマグロが認定されるものです。

当日は、まぐろ延縄（はえなわ）船2隻により水揚げされた127尾のメバチマグロのうち50尾が「三陸塩竈ひがしもの」として認定され、最高値は1キログラムあたり8,000円となり、関係者に見送られながら仙台市中央卸売市場や豊洲市場に出荷されました。

販売開始式終了後には、水揚げされたばかりのメバチマグロを地元の寿司職人が握り寿司にして振る舞い、出席者は極上のマグロを味わっていました。

「三陸塩竈ひがしもの」は12月末まで出荷され、塩釜水産物仲卸市場などで販売されるほか、塩竈市内の10寿司店では「ひがしものまぐろ祭り」が行われており、11月末まで親方自慢のオリジナルメニューが提供されています。是非お召し上がりください。



「三陸塩竈ひがしもの」のセリ



「三陸塩竈ひがしもの」出荷の見送り



「三陸塩竈ひがしもの」の握り寿司